

澁川一流柔術
無雙神傳英信流抜刀兵法

貫汪館会報

第61号

発行 貫汪館
発行日 平成二十一年七月二十四日
発行人 森本邦生
広島県廿日市市宮内一四八〇

「白峯神宮奉納

武道奨励繁栄祭」

平成21年5月5日(火) 京都白峯神宮
神楽殿において、白峯神宮奉納・武道奨
励繁栄祭(白峯神宮主催、日本古武道振
興会共催)が行われました。当貫汪館か
らは、無雙神傳英信流抜刀兵法の演武を
森本先生、丸田師範代が、澁川一流柔術
の演武を森本先生、竹本師範代、竹本治
恵がそれぞれ行いました。

白峯神宮は、慶応四年(一八六八)に
創建され、社地は蹴鞠と和歌の家元であ
った飛鳥井家の邸宅にあたります。その
ため、神社内にはスポーツの守護「精大
明神」の御社も鎮まり、プロサッカー選
手をはじめ、多数の選手がボール等を奉
納されています。また、白峯神宮には「両
道館」という道場があり、空手、剣道、
合気道が稽古されており、当日は、それ
ぞれの奉納演武も行われました。

演武に先立ち、白峯神宮境内にお祈り
されている伴緒社(伴緒社は、保元の乱
に崇徳天皇方に馳せ参じた源為義(源氏
の棟梁)と弓で名高い鎮西八郎為朝父小
の二公が祀られています。)に演武者一同
で正式参拝しました。参拝後、西村尚宮
司より、「毎年5月5日には演武を奉納
いただきありがとうございます。及ば
ずながら演武のお手伝いをさせていただ
いているが、みなさま方の演武を毎年楽
しみにしています。みなさまの足元には
棕木の葉の残骸が多数落ちていますが、
い先日までは桜や楠木が満開でしたが、



(文責 竹本康祐)

それらの葉や花がすべて落ちてしま
って一日に3回掃いても間に合わな
いほどでした。木は木なりに一所懸命
生きています。我々も新しいものは新
しいものなりに、また、高齢者は老齡
者なりに一所懸命生きなければなら
ないでしょう。最近、メキシコか
ら怪しげ病気が、また、北朝鮮から怪
しげな人工物が飛来してきています
が、みなさまには武道を通じて日頃か
ら何事にも動じない氣を練り、技を鍛
えておられる。どうかこの世界が平和
であり続けるよう神前に祈りをささ
げたいと思います。」とのお話しがあ
りました。本年の演武には19流派が参
加され、いつもながら各流派とも立
派な演武をされていました。演武を行
う神楽殿は、小ぢんまりとして落ちつ
く場所、今年も心静かに演武をする
事ができました。

下鴨神社奉納演武に参加して

平成21年5月4日、京都下鴨神
社で行われた演武会に3回目の参
加をさせて頂きました。今回は下
鴨神社で詰合の演武をすることに
していたため、演武会の前には森
本先生に久留米まで来て頂き、短
時間で集中して稽古しました。し
かし、直前に体調を崩してしまっ
たため、下鴨神社では居合の演武、
白峯神宮では詰合の演武と変更し
ていただきました。

毎年観光客の方が多い下鴨神社
ですが、今年は高速道路の通行料
金が安くなったためか、観光客の
方も例年より多く、熱心に見学さ
れていました。演武は舞殿と橋殿
の二箇所で行われますが、無雙神
傳英信流抜刀兵法の演武は昨年同
様、橋殿での演武となりました。
演武したのは初発刀・横雲・向弘・
柄留・向詰・向詰・抜打の七本で、
先生と同時に抜かせていただきま
した。いつもは緊張して心に力み
が生じるのですが、今回は具合が
悪くて過剰な緊張をする余裕がな
かったため、逆にいつも通りの居
合ができたように思います。演武
終了後にも貫心流の沖本先生から
「昨年より落ち着いていた」と声
をかけていただきました。

貫汪館で居合を稽古されている
方も見学に来られていましたが、
様々な流派の演武を目の当たりに
し、目を輝かせて見ておられまし
た。他の武術、他流派を見学させ
て頂くことは自分の至らぬところ
を知ることでもでき、とてもよい稽
古になると思います。

詰合は、翌日の白峯神宮で演武
しましたが、大過なく演武を終え
ることができ、先生からも「いつ
もの稽古のなかでもっとも良い演
武ができた。」と褒めていただき、
一安心しました。後日、貫心流の

沖本先生より、下鴨神社での私
たちの演武のビデオをお送り
いただき自身自身の演武を見
て、これから稽古しなければな
らない点が明らかになり、稽古
の指標としています。

(文責 丸田愛)



無雙神傳英信流抜刀兵法 居合講習会に参加して

私は、2ヶ月前に柔術を始めた
ばかりの初心者ですが、今回初め
て居合の講習会に参加させて頂き
ました。

刀を持つこと自体が初めての経
験で、「意外に重いな。」というの
が第一印象でした。その重さに、
どうしても刀とそれを支える腕に
意識が向いてしまい、普通に立っ
ている時でさえ、全身が堅くなっ
ているのを感じ、刀を抜くこと、
鞘に納めることどころか、座った
り立ち上がったことすらできず
思うようにできませんでした。一
方、先生や兄弟子の方々が、静か
に刀を扱われるのを見てみると、
実に自然というか、刀自身の重さ
をも利用しているように見えまし
た。

私が思ったのは、肚で重さを捉
えているから、刀の重さを感じさ
せない動きができるのではないか
ということでした。

また、講習の冒頭、先生から、「最
初の姿勢に無理があると、次の動
作にも無理が生じる。」とおっしゃ
られました。私も立膝の状態
既に力みがあり、全ての動きが力
任せになっていることをはつきり
自覚することができました。

柔術においても、四肢に力を入
れるのではなく、四肢の重さを感じ、
肚を中心に動けることができ
るくらい力みのない自然体が重要
だと思っています。

今回の講習会で感じたことを、
今後の稽古に生かしていきたいと
思います。

(文責 西川朋樹)

第十五回 古武道大会

平成21年6月28日(日曜日)大阪市阿倍野区にある大阪市立阿倍野区スポーツセンターにおいて行われた、「第十五回 古武道大会」(主催 円心流居合拵物剣法)に初めて参加させていただきました。古武道18流派が演武をする大きな大会でした。澁川一流柔術からは、森本先生・竹本師範代・竹本治恵・片岡潤一・竹林哲也の5名が参加し、演武をおこないました。会場は非常に広く、会場の準備・運営も行き届き、円心流居合拵物剣法の道場の大きさや、門弟・関係者の方々の道場に対する想いや意識の高さを感じることができました。

大会は、国歌斉唱・大会会長挨拶・大会委員長挨拶・開会宣言と続き演武が始まりました。各流派の演武に先立ち、円心流居合拵物剣法 増本宗家による「三宝斬」が行われました。この「三宝斬」とは、三宝にのせた巻藁を僅かに切り残して巻藁が自らの重量で富士の形になるようにする、円心流居合拵物剣法における古事瑞相の儀式です。その後、円心流居合拵物剣法の門弟の方々の演武、各流派の演武へと続きました。どの流派の方々も日ごろの稽古の成果を余すところ無く演武をされ、流派に対する想いや稽古に対する取り組み方がよく現れた演武をされていたと感じました。澁川一流柔術として今回初めて参加させていただいた演武会で、いつもの道場よりも広く、大きな会場ではありませんが、普段の稽古どおり落ち着いた演武ができたと思います。また、会場は畳ではありませんでしたが、慌てることなくその場の状況にあつた動きができました。

今回の演武会では、演武会を見に来られている一般の方々にお昼の休憩時間を使って古武道を体験していただく時間が設けられており、本體楊心流柔術の先生方が体のかわし方や動き方を指導されており、大人から子供まで楽しく古武道に触れ、現代武道とは違った動きを体験されていたようです。

演武会は、宝蔵院流高田派槍術を最後に閉会しました。このような大きな演武会で演武させていただくことで、いつもながら自分の業の至らなさがよくわかります。稽古とは違った雰囲気の中で演武することは、これからの稽古の指針になると思います。また、多くの流派の演武を見ることで、見る目を養う事ができます。時間の許す限り、皆さんも多数の流派の演武を見てください。そして、ぜひ、多くの方に稽古を重ね演武会に参加していただきたいと思っています。

(文責 片岡潤一)

この度、日本武道館に続けて大阪での古武道大会にも参加させていただいたことは、私にとつてかけがえのない貴重な経験となりました。これまで稽古で、柔術は決して素人を相手にするのではなく、刀や槍等様々な武器を自在に操る者と対峙しなければならぬ。そのような相手に対しても常に自然な動きで、どのような仕掛けにも自在に対応できるように稽古をすること考えてまいりました。ですが、それは想像の域でしかなく、実際に刀や槍、薙刀などどのような働きをするのかを理解できていないことがよく分かりました。今回、各流派の形の演武を拝見させていただく機会を得て、演武者の仕掛けの間合や息遣いを目の当たりにし、今の私の次元では到底おおよびもしないことが良く分かりました。この経験を道場で皆さんにお伝えし、より高い次元の稽古を目指していかねければならないと強く感じました。

(文責 竹林哲也)



昇級審査(6月)

昇級者

七級

中郷 野々花

向井 薫子

六級

中郷 稔

中郷 資

三級

森 美七海

北川 太一

二級

山下 風花

一級

森 千優

昇段者

初段

山下 大樹

今回の昇級審査では、子供たちの上達が目立ちました。日頃指導していただいている大人の方々の指導方法も上達しているのだと感じました。昇級された子供たちは、更に上の級を目指して稽古に励んで下さい。子供を指導される大人の方は、子供たちの次の昇級審査に向けての形を稽古させていただきますよう、引き続きよろしくお願いたします。

平成21年行事予定

無雙神傳英信流抜刀兵法

講習会予定

「太刀打・詰合」 7月26日(日)

「奥居合」 9月27日(日)

日本武道学会第42回大会

8月24日(月)
25日(火)

広島護国神社奉納演武

(貫注館主催)

9月6日(日)

明治神宮奉納

日本古武道演武大会

(日本古武道振興会主催)

11月3日(月)

厳島神社第18回

日本古武道術技向上演武大会

(日本古武道協会主催)

11月29日(日)

昇級審査

12月

稽古納め・廿日市天満宮
奉納演武
12月20日(日)